

# 中学校・第1学年・総合的な学習の時間・ふるさとの良さをHPで発信①

## 育成を目指す資質・能力

静岡市提供

- 地域の方がふるさとを守るために様々な取組を行っていることを理解し、その思いや生き方に気付く。
- 地域の方と様々な形（対面・ウェブ会議システム・学習支援ソフト等）で交流する活動を通して、ふるさとの良さ（課題等含む）を再発見し、ウェブページを作成することができる。
- 実際に地域貢献に取り組む方の思いや生き方に触れ、自分が今できることを考え、実行しようとする態度を身に付ける。

## ICT活用のポイント

- 体験活動（鮎の放流・インタビュー等）において、情報収集する。【カメラ機能】
- 漁協とのウェブページを協同制作する。【学習支援ソフト】
- 協同制作において、ウェブ会議システムによる交流を行う。【学習支援ソフト・ウェブ会議システム】
- 制作した資料を学校ホームページへ掲載する。【学校ホームページ】

## 事例の概要

### ① 鮎放流体験・インタビュー活動

【カメラ（動画）機能活用】

### ② ウェブページ生徒間協同制作

【学習支援ソフト活用】

### ③ 漁協・生徒間協同制作・交流

【学習支援ソフト・ウェブ会議システム活用】

### ④ ウェブページ修正・学校ホームページへの掲載

【学習支援ソフト・学校ホームページ活用】

### ① 鮎放流体験・インタビュー活動

鮎の放流体験を行うと共に、漁協の方へのインタビュー活動を行う。体験等の中でICT端末による撮影や情報収集を行う。データはウェブページ制作に活用する。

### ② ウェブページ生徒間協同制作

生徒がグループごとに担当ページを協同制作する。体験・インタビュー活動での情報や画像等をもとにページを制作し、他グループの内容を共有する中で加除修正を行う。

### ③ 漁協・生徒間協同制作・交流※事前に漁協側から生徒が制作したページへのコメント入力あり。

漁協・学校間を学習支援ソフト・ウェブ会議システムで接続。生徒がウェブ会議システムで漁協からのコメントへの質問等を行い、学習支援ソフトで、修正したページを漁協側から確認する。

### ④ ウェブページ修正・学校ホームページへの掲載・漁協へのお礼作成

個人情報等の確認を教師が行い、制作・修正したウェブページを学校ホームページに掲載する。学習支援ソフトで漁協へのお礼のウェブページを制作し、学校ホームページに掲載する。

# 中学校・第1学年・総合的な学習の時間・ふるさとの良さをHPで発信②

## 【学習支援ソフトによる非対面の交流】

**川と鮎**

鮎の生態に適しているのはどんな条件の場所か  
こげが多く、大きな石がある場所。水がきれいな場所。

鮎にとって、現在の興津川の状態は望ましいものか  
良いとは言えない。鮎が産卵する場所（こげ）が少なすぎる。また、大きな石が少ない。水が汚れている。鮎が産卵する場所（こげ）が少なすぎる。また、大きな石が少ない。水が汚れている。

天然鮎は増えているのか  
長年に渡る治水工事によるものと見られるが、減少傾向にある。鮎に似た鮎の産卵状況が減少してしまっている。

変りり以外は何でめなのか  
鮎に産卵以外ではいけないわけではない。鮎の産卵以外ではいけないわけではない。鮎の産卵以外ではいけないわけではない。鮎の産卵以外ではいけないわけではない。

**【対面交流後】**

**川と鮎**

Q 鮎の生態に適しているのはどんな条件の場所か？  
A こげが多く、大きな石がある場所。水がきれいな場所。

Q 鮎にとって、現在の興津川の状態は望ましいものか？  
A 良いとは言えない。なぜなら産卵に適った（こげ）が少なすぎる。また、大きな石が少ない。水が汚れている。鮎が産卵する場所（こげ）が少なすぎる。また、大きな石が少ない。水が汚れている。

Q 天然鮎は増えているのか？  
A 長年に渡る治水工事（こげ）によるものと見られるが、減少傾向にある。鮎に似た鮎の産卵状況が減少してしまっている。河口の減少によってアユが上ることができなくなってしまっている。

Q 変りり以外は何でめなのか？  
A 鮎に産卵以外ではいけないわけではない。鮎の産卵以外ではいけないわけではない。鮎の産卵以外ではいけないわけではない。鮎の産卵以外ではいけないわけではない。

### 【対面交流前】

事前に漁協側からアドバイスやコメント等を入力

交流内容をもとに修正等を実施

## 【ウェブ会議システムによるリアルタイムの交流】



学習支援ソフトで同一データを共有しながら、交流（質問・確認等）をウェブ会議システムにて実施

## 1 ICTを効果的に活用するためのポイント

### (1) 鮎放流体験・インタビュー活動

対面する体験的な活動と共に、ICTによる交流（非対面・リアルタイム交流）を組み合わせることにより、地域協力者の負担を軽減しつつ、効果的な交流を複数回実施できるようにする。

### (2) ウェブページ生徒間協同制作（漁協からの事前入力）

ウェブページを制作・発信することが目的化しないよう、地域に貢献するという目的を単元全体を通じて確認する。また、各担当ページを確認し、関わり合いながら制作に取り組めるよう支援するとともに、漁協からの事前コメントを確認することにより、リアルタイムの交流時の目的意識を明確に持たせる。

### (3) 漁協・生徒間協同制作・交流（リアルタイムの交流）

漁協との交流を重ねることでウェブページの完成度が高まるよう支援する。

ウェブ会議システム用・学習支援ソフト用、2台の大型モニターに出力することにより、クラス全体で進捗状況を確認しながら活動できるよう配慮する。

### (4) ウェブページ修正・学校ホームページへの掲載・漁協へのお礼作成

リアルタイムの交流後に、制作・修正したウェブページを学校ホームページに掲載する。（漁協が制作したページの追加掲載や生徒が制作した交流のお礼（寄せ書き）等も追加。）

## 2 生徒や教師にとってのICT活用のメリット

来校いただく形で複数回の交流を実施することは困難であったが、ICTを活用することにより負担を軽減しつつ交流を深めることが可能となった。

### 【活用したソフトや機能】

カメラ機能・ウェブ会議ソフト・学習支援ソフト（データ共有機能）・デジタルホワイトボード機能